パンタナール通信

南北米福地開発協会　　会報　　２０１１年1月1日　　８８号

レダの基地から朝陽を見る

神山会長と学生達（２０１０年新年会）

環境に優しい 牧場

謹賀新年

自然環境の破壊が大きく進む昨今、皆様におかれましては、環境を保護し美しい地球星を守ろうと尽力され、また尊い支援を常々してくださり、心から感謝もうしあげます。レダでは、極力自然破壊をしない牧畜の強化と、新たにパラグアイ河の魚を守り、パラグアイの人々の食生活向上を願って、養殖事業に向けての準備が成されています。また未来を担う青年教育の道を拓いてきました。

パンタナールは観光王国の基いとなる天から与えられた大自然の恵みが豊かに生きづいています。その恵みを最大限生かすため、滑走路の充実、宿泊設備の強化など、エコツアーに向けて確実に進められています。

ニームの苗木を中心とした植樹活動も、昨年のカトルセマジョ村、バイアネグラ市、ミンガグアス市などでの実績を元に、さらに今年も少しでも国家全体に、願わくは南米全体に大きく良い影響を与え、地球環境浄化育成に向けて貢献して行きたいと願っています。

日頃の皆様のご厚情に心から感謝を申し上げながら、今年も力強く前進して行きたいと思います。

合わせて皆様ご家族の御健勝をお祈り致します。

南北米福地開発協会　会長　神山威

第10回国際協力青年奉仕隊とともに（右　後方、飯野夫妻）

明けましておめでとうございます。

韓半島や尖閣諸島など、極東アジアが風雲急を告げる緊迫の中にありますが、これも新しい南北統一国誕生の夜明けの兆しではないでしょうか。希望と自信を持って今年もレダの歩みを通して、地球の裏側から大きく世界平和に貢献して行きたいものです。

具体的にレダ開発の歩みが、一層地球環境問題に貢献し、パラグアイ国という発展途上国の生活と教育向上に役立てるよう夫婦共に老骨鞭打って、命がけで頑張って行く所存ですので、昨年同様、皆様の厚いご協力をお願い申し上げると共に、皆様にとって今年も素晴らしい年となりますよう祈念しております。

南北米福地開発協会副会長
レダ基地責任者　飯野貞夫、絢子

魚の養殖

レダは養殖の体制を整えて、具体的に育てる段階に入っています。現在レダは、中田氏を中心に滞在者全員、初期の情熱を忘れるな、を合言葉に頑張っています。

パクの養殖にむけて毎日、中田先生、青木先生と労働者がボートで、敷地内の奥地の広い池でパクの子供を釣ってきています。現在までに二千百匹以上のパクを釣り上げて養殖池に入れています。

上山氏が出発

十一月十九日のアキタバンで上山氏がアスンシオン大学で十一月二十二日から四日間、パクの孵化技術研修に参加するため出発されました。本格的なパクの養殖に向けて貴重な学習体験になると期待されます。

上山氏が参加されたアスンシオン大学での養殖研修のスナップ写真の一部です。池の作り方、餌の作り方、魚の育て方など基礎知識を４０名の参加者に教えたそうです。台湾、アルゼンチンも技術協力をしています。

二千十一年に向けて（佐野南北米福地開発財団副会長）

二千十年という節目の年を終えてまた新しい十年がスタートします。レダ開拓も、この十年の節目と共に新しい段階に進みます。これまで、多くの人に支えられ、ここまで来れたことを心から感謝している次第です。

アスンシオンの事務局もレダ開拓の後方支援基地として、十年間、食料や機材の補給はもとより、雇用問題を始めとする様々な法律問題の解決や渉外など財団守護及び存続、財団の社会的地位向上の為の様々な活動をなしてきました。また、レダと日本との中継地として、アスンシオンの貴重な拠点としての役割を果たして来ました。

これからの十年間は更に、レダが益々注目度を増し、財団としてこの社会における責任と役割が益々重大になってくると思います。パラグアイの政界、官界は隅々まで汚職が蔓延し、地位を利用する利権争いに明け暮れ、一般の人たちは政治家に完全に失望しています。それ故、我々を知る人は全て、異口同音に我々に期待を寄せています。最近もインディヘナの組織の責任者が数人この事務所を訪れましたが、彼らは地元政府や中央政府が何かをしてくれるという期待は全く持っていなく、彼らの生活向上、発展のためにプロジェクトを我々と共に進めていくことを期待していることを表明して帰っていきました。

今後、今までの自己資金で地元の人に貢献してきた段階から、他団体や世界組織と連携しながらプロジェクトを推し進めていくというという次の段階に次元を引き上げ、具体的に地域発展に貢献していくことが出来たなら、国が認めざるを得ない存在になり、国民の完全な信頼を勝ち得て、レダの摂理の目的成就に少しでも近づく事になるのではないかと思う次第です。

二千十一年からここアスンシオン事務局も中井氏にバトンを渡し、新しいスタートを切りますが、彼の温厚な人柄が多くの人の信頼を得て財団の更なる発展につながっていくことを確信する次第です。

今後とも良きご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

アスンシオン事務局　佐野拝

第十三回ピースライフセミナー開催

十二月　四，五日　　場所　　川崎市民プラザ

第十三回ピースライフセミナーは四十三名の参加者で行われ、遠く九州からも参加した方が二人もおり、熱気あふれ、また家族的な暖かいセミナーとなりました。

南北米福地開発協会の創設者、レバレントムーンの人間と自然との共生を如何に成すかの講義、また地球の緑を守る会、高津理事長を特別講師として迎え、現在、抱えている地球環境問題の深刻さと対策の講義、そして五日の朝にはセミナー会場に隣接する自然林の散策とドングリの種を採取し、種から苗木を作る実地指導を受けました。

参加者は地球環境改善のため、身近な場所で樹を植えて行きたいと感想を述べていました。

高津先生の熱い講義にも心を動かされました。植樹を若者の間で流行らせてブームにしたいというアイデアも湧いてきました。

まずは私からという思いでポット苗も購入しました。勇気があれば何んでもできる。いくつになっても大志を抱き本気で取り組んでいらっしゃる先輩方の姿に感化されています。

若者が目覚め、明るい未来を築かなくては。私は燃えています。一青年より

第十三回ピースライフセミナー参加者

なぜ自然を守らなければならいのか

（講師：高津啓洋）

今世界が環境、環境と騒いでいますが、なぜ自然が大切なのかとあらためて聞かれると答えるのはなかなか難しいものです。六〇年代以降、知床に開発の波が押し寄せてきたとき、後に斜里町の町長となる午来（ごらい）さんはこう答えています。

「肥料をどんどん使って農業をし、浜辺をつぶして港をつくるのがいいのか。きれいな海と山があるから鮭も帰ってくる。これを粗末にしたとき何が残るのか。われわれが生き長らえてこられたのは、知床の自然があるからなんです」

「道路や港をどんどんつくれば町が発展するとみんな信じていましたから。自然を守ろうなんて言うたびに、『若造、だまれ。自然保護でメシが食えるか！』とやられました」

英国のナショナルトラスト運動にヒントを得て、一口八千円で知床の土地百平方mを購入してもらえないかと全国の人々に訴えました。「仲間たちと何十年かかるかなと話していたのですが、アイデアを発表してから一週間は役場の電話が鳴りっぱなし。よかった、これでやれると思いました」

日本で初めて行政が行ったナショナルトラスト運動によって五億円を超す寄金が集まり、ほとんどの土地を買い取って森林の再生へとつなげることができました。「自然があるからわれわれが生きていける。それに手をつけたら未来に残すものがなくなってしまう」。午来さんは四十年間そう言い続け、二千五年、ついに知床は世界自然遺産に登録されました。

パンタナールの保全も原則はこれと同じです。会員の皆さんの熱い志で汚染の波が押し寄せる野生生物の聖域・パンタナールを守ってほしいんです。

環境問題は人の話を聞いても本を読んでもそれだけでは分かりません。明日の朝食後、この施設の裏の森を散策しますから、そこでシラカシのドングリを拾い、皆さん自身の手で苗を育て、小さな森をつくってみてください。

地球家族として自然を守りましょう

南北米福地開発協会 会員の募集中

南米、パラグアイパンタナール地域へのエコツアー ならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒二一三－〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区
溝口三－十一－十五
岩崎ビル四F

電話 〇四四－八二九－二八二一
Fax 八二九－二八二〇
会費納入 郵便口座
一〇一八 〇－七七六八〇四七一
代表 柴沼邦彦

E-MAIL office@asd-nsa.jp
ホームページ http://www.asd-nsa.jp